

平成13年度 和歌山県文化奨励賞

みわさききょうどげいのうほぞんかい 三輪崎郷土芸能保存会

創立：昭和48年

代表：蛭子 圭造

所在地：和歌山県新宮市

会員数：58名

■主な表彰歴等

昭和49年 和歌山県指定無形民俗文化財指定

◎業績及び経歴

三輪崎は、万葉集に「神之崎荒瀬も見えず浪立ちぬいづこへゆかんよき道はなしに」と歌われ、吉野熊野国立公園の孔島、鈴島があり、昭和8年に新宮市と合併した町である。

県指定無形民俗文化財である「三輪崎の鯨踊り」は、旧三輪崎村で、三輪崎組と呼ばれた捕鯨を生業としてきた人々が、延宝5年(1677年)から大漁を祝して演じられてきた民俗芸能である。

鯨踊りは、一名を「捕鯨踊」とも言い、捕鯨の形を踊りにしたもので、殿中踊りと綾踊りの二つからなっている。

長い間続いた捕鯨が、明治になってから不漁などにより衰退し、鯨踊りも一時中絶していたが、大正に入って復活した。以降、毎年三輪崎神社の秋祭りに際して、獅子舞などとともに奉納されている。

この「三輪崎の鯨踊り」の保存伝承を精力的に行うため、昭和48年に保存会が組織された。その活動は、保存と伝承に努めるだけでなく、普及と公開にも積極的に取り組んでいる。

和歌山県民俗芸能大会をはじめ、県内外で多数の民俗芸能大会に協力、出演することにより表彰状や感謝状を多数受けている。また、県内外の無形民俗文化財保持団体と交流を深めるとともに、自己研鑽に努めており、本県の伝統文化の保護と普及に果たした功績は多大である。